

今年の弘前地区「化学への招待」は、東日本大震災の影響が懸念されたが、8月5日に無事開催された。化学への招待は、弘前大学を開催地とし、高校生・中学生を対象とした「化学」の啓蒙活動である。

今年度の参加者は108名であり、午前中に「有機物が燃えなくなったら？」（講師：理工学研究科澤田英夫教授）を聴講、午後は参加者自らが簡単な化学実験を体験した。なお、実験テーマは6つあり、「果物のにおいを作る・ルミノールを用いた発光反応」（理工）川上淳准教授、「色で測る!! ードリンク剤中の鉄の定量ー」（理工）糠塚いそし教授、「高分子ゲルの不思議」（理工）須藤新一教授、「色が変わる無機高分子」（理工）阿部敏之准教授、「青森県の植物を利用した香料・化粧品科学」（理工）長岐正彦教授、「コンピューターで分子を考えてみよう」（教育）長南幸安教授・（農学生命科学部）橋本勝教授であった。

参加者は、全員真剣に取り組み、各々化学への興味が当に呼び覚まされたようであり、「普段触れられない、見ることができない器具や薬品を見たり使ったりして、とても貴重な体験ができた」、「今まで以上に化学が好きになった」、「これまで行ってきた実験よりも楽しかった」、「他の化学実験もやってみたい」など、多くの好意的な感想を頂いた。実際に実験を体験することで化学の面白さを実感してもらいたいという企画側の希望が叶ったといえる。

このように化学への招待は毎年好評を得て、年々参加者も増加している。近年では、予定人数（60名）を大幅に越える100名以上の参加希望者があり、会を大盛況に終えている。1988年から始まった化学への招待は今年で23年目を迎え、その実績が認められ、今年、化学への招待実行委員会は弘前大学表彰を受賞した。この受賞を励みに実行委員会は、今後も中高生が化学に興味を抱くきっかけとなる楽しい聴講や実験の場を提供し続けていく。

物質創成化学科 川上 淳（平成24年度「化学への招待」実行委員長）